

## 研究発表Ⅱ

学 校 名：伊勢原高等学校 P T A

研究テーマ：「私たちができるSDG s」

### 学校紹介

伊勢原高校は、古くから山岳信仰のある大山の麓に昭和5年に移転し新築され、創立94周年を迎えます。現在の生徒数は、全日制が男子340人・女子430人、定時制が男子27人・女子20人。インクルーシブ教育実践推進校として49人、在県外国人生徒は26人ほど受け入れております。



### 1. P T A活動について

#### 【学年委員会】

例年進路に向けて外部講師をお招きし懇談会を開催していましたが、コロナ禍の関係でスケジュール調整が難しく、残念ながら開催することはできませんでした。

#### 【成人教育委員会】

主に保護者の親睦を深めるイベントの企画運営を行っております。今年7月に講師を招いて「ワイヤーリース」の講習会を開催いたしました。生花を使ったワイヤーリースは、皆さんから大変好評でした。



### 【交通委員会】

生徒の交通安全に関する活動を行っております。6月に「交通安全指導」「自転車点検」を行いました。交通安全指導では、登校時間に危険な交差点に立ち声をかけました。我が校は自転車通学の生徒が多く「自転車点検」も行っております。



### 【広報委員会】

主に保護者へ向けて学校の様子を広報しており、年2回「虫めがね」という広報誌を発行しております。



### 【環境整備委員会】

校内の美化を目的として主に活動しております。

先月行った花植えは、地植えにすることで、地面から直接水分を吸収し、プランターの材料でもあるプラスチックを使わないことで、「SDG s」の活動に貢献できました。



### 2. 生徒達の活動について

3年振りに「明鏡祭：体育の部・文化の部」が開催され、保護者1名までの観覧となりましたが、各委員会で協力し、イベントを開催できたこと



が、保護者の私達も楽しい時間となりました。

### 3. 私たちができる「SDG s」

コロナ禍により各委員会の活動が中止となり、予算が残っている状態でした。その予算で何か活動ができないか話し合いを行いました。以前不要となった体育館履きを海外に輸送する活動をしたことがあり先生から聞いたことがありました。今回PTAがこの活動を引き継ぐことができないか検討するために、我が校の卒業生であるメインメンバーのアカンド・ユキさんにお会いし、話を聞かせていただきました。



【国際活動を高校生の頃から行っており、進学希望先でもあった東海大学の先生とも繋がりが有り「やってみよう！」となって、卒業式と同時に不要となった体育館履きを海外支援物資として輸送する活動を行いました。】

PTAでこの活動を引き継ぐことが決定。生徒会もこの活動に賛同し、PTAと生徒会と一緒に活動することとなりました。アカンドさんと意見交換する中で、現地では文房具も不足しているという話を聞き、生徒・保護者・教員に声をかけ不要となった文房具も集めることとなりました。

この活動を国連で決議された「SDG s」に繋げ活動することとなり、次の目標をゴールに活動がスタートいたしました。



体育館履きは卒業生より80%回収となり、集めた文房具と選別作業を行いました。校長先生方や生徒会、手伝ってくれた生徒さんと一緒に支援物資を準備した時間は私たちも楽しく充実した時間となりました。



### カンボジアの子どもたちに笑顔を・・・。

本来であれば、カンボジアの子どもたちの笑顔を発表できる予定でしたが、支援物資が子どもたちに届いておりません。郵便局のネットで確認できる配達記録をみると、カンボジアのプノンペンの郵便局には届いていることが確認できました。

2022/04/28 08:23	国際交換局へ到着	PHNOM PENH	CAMBODIA
2022/04/28 14:21	税関検査のため税関へ提示	PHNOM PENH	CAMBODIA
2022/04/28 14:30	通関手続中	PHNOM PENH	CAMBODIA
2022/06/29 15:41	税関から受領	PHNOM PENH	CAMBODIA
2022/06/29 15:43	国際交換局から発送	PHNOM PENH	CAMBODIA
2022/06/29 16:05	お届け済み		CAMBODIA

現地の税関で検査を受けていることがわかりました。以前、発送した際は1箱でしたが、今回は

8箱送っており、数の多さに検査の対象となったのかもしれない。

現地の郵便局に何度か問い合わせいたしましたが連絡がとれず、小学校に連絡をとると、小学校からプノンペンの郵便局まで車で6時間かかり、車の手配が必要とのこと。私たちとしては、これ以上どうしていいか手が出せない状態となってしまいました。

**反省点** カンボジアの郵便情勢が日本とは全く違っており、カンボジアでは住所があつてないようなもので、荷物は郵便局留めにし、直接受け取りに行くというのが通常のようなものでした。以前発送した経緯があるため、届くことが当たり前と思込んでおりました。それと、やはりコロナ感染で世界の郵便情勢が混乱しているのも大きく影響したようです。

**今後の対応** 引き続きカンボジアの郵便局に配達ができないか問い合わせ、それが難しい場合は、カンボジアの日本大使館に何か解決策がないか、相談する方向でいます。

**最後に** 今回このテーマを発表するか悩みましたが、これまでの意見交換や発送準備をおこなったことは実績として残っています。この現状について校長先生や生徒会長から前向きな意見をいただきました。日本の郵便局の信頼性や体育館履きの有効活用について学び、この活動が無かったことにせずありのまま報告しよう！と今回発表させていただきました。